**第７回市民自治推進委員会　まちづくり部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成２８年１１月９日（水）　１８時３０分～

◆ 開催場所：登別市役所３階　第１委員会室

◆ 出席部会員：部会長　　中原　義勝

　副部会長　渡部　雅子

部会員　　山田　正幸

　　　　　田中　寛志

　　　　　　　　　　　　 川島　雅司

　　　　　　　　　　　　 工藤　隆行

　　　　　　　　　　　　 松田　　毅（協働推進庁内委員会部会長）

【市民生活部次長】

笠井　康之（協働推進庁内委員会副部会長）

　　　　　　　　　　　　　　　　　 【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会員　　稲葉　一彦

松本　崇之

　　　　　　　　　　　　 成田　育磨

◆ 事　務　局：　　　　　松田　　毅（庁内委員会兼）【市民生活部次長】

笠井　康之（庁内委員会兼）

【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　　　　　　 有馬　亮太【市民生活部市民協働グループ主査】

◆ 議　題：第２回部会長・副部会長会議の概要とまちづくり部会の「健康」に関する取り組み（講演会の実施）について

**≪部会長≫**

会議案内にもございますように、来年の方向性ということである程度話し合っていくのですが、もう少し細かなところで詰めをおこなうことが大きな目的なのですが、皆さん方に資料を用意してございますけれども、部会長・副部会長会議がおこなわれていますので、その状況を皆さんにも認識してもらう意味で、最初に事務局から報告していただいて、先に進んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

**≪事務局≫**

それでは事務局から、本日の会議の流れを説明させていただきます。

始めに10月11日に開催した、２回目の部会長・副部会長会議の概要について、簡単にご説明させていただき、部会長に引き継ぎたいと思います。

部会長・副部会長会議では、９月末までに各部会が議論してきた健康に関する取り組みについての説明がありました。資料としまして配布しております、Ａ４横一枚ものの資料から説明いたします。

最初に、ぬくもり部会は、特定健診の受診率を上げる取り組みをおこなうこととし、まずは自治推進委員会の委員の皆さんを対象に、アンケート調査を実施するということとしております。また、鷲別地区の集団健診に申し込んだ際、満杯で断られたことがあったということで、受診率を上げる取り組みをするのであれば、もう少し定員に余裕があればいいというお話が委員からありました。

防災・環境部会は、ウォーキングをしながら、自然環境にふれるような取り組みを実施するということになっておりますが、実はこの資料のあとに部会がありまして、内容が一部変更になりました。内容としては、防災の部分の色をもう少し出したいという意見がございまして、津波に対する高台の避難場所に避難するという訓練も多いことから、その場所に避難するウォーキングというような取り組みを進めていきたいというように変更になりましたので、お伝えしたいと思います。

産業躍動部会なのですけれども、地場産の食材を利用した料理教室の実施。それから温泉の効能についての調査を実施するということで説明しております。

都市調和部会は、以前教育委員会のほうで作成したきらり健康ふれあいウォーキングマップ、こちらをリニューアルするということで取り組む予定です。そのほかに市の公園の整備や健康遊具の設置の話、それからコンクリートストレスと言って、建物がコンクリートで出来ていると、ストレスが自然と溜まってしまうという大学の学術的な話から、木材の使用を市営住宅に反映できないかというお話も、部会のほうでありました。

育み部会は、公園の利用実態調査について取り組む予定で、調査方法に関して質問があり、すべての公園ではなくていくつかにしぼって調査するということで、地域の方と一緒に公園のあり方を考えていきたいという話がありました。また、公園使用のルール、例えばボールが使えないなどのルールがあるものですから、そういったものを変えられないかというお話も、他の委員からありました。

それからまちづくり部会につきましては、従前からお話があるとおり、健康に関する講演会の開催と広報紙への健康コラムの掲載について、取り組むというお話をしていただきました。具体的にはロコモティブシンドロームに関する講演をおこなうということで、説明していただきました。

各部会の取り組みの方向性の説明のあと、事務局から市の平成29年度予算に関する説明をおこないました。ぬくもり部会と育み部会を除く４部会で、資料の右側に記載のとおり、予算要求の事務を進めておりましたが、こちらも先ほどの話に付随するのですが、２番目の防災・環境部会は当初は市民向けのウォーキングというものを取り組みたいという、予算要求の案を持っていたのですけれども、経費をかけずに避難経路をウォーキングするという話でまとまりましたので、こちらの金額はすべてゼロに変更させていただいております。

４番目の都市調和部会で新しくウォーキングマップを作成する印刷につきましては、当初９地区のマップを作っておりまして、想定しているのですけれども、以前作成した際には９地区が３カ所ずつ３年かけて作成している経緯もありましたので、今回についても前回そういう経緯がありましたので、財政サイドと予算要求はしていますが、この金額はこれから精査する形になってくるかと思います。

そのほかに、部会間の連携に関するお話の協議をしまして、先ほどの防災・環境部会のウォーキングですが、部会長・副部会長会議の話の中で、そこのウォーキングと産業躍動部会の料理教室について、例えばウォーキングをしてからの料理や、ウォーキングをして山菜を採って料理をするような部会間の連携、そういったお話があり、その調整は事務局でおこなうこととさせていただいております。

また、公園の関係につきましては、育み部会と都市調和部会で一部重なる部分があるのですけれども、取り組み自体は育み部会をメインとなり、内容が固まりましたら都市調和部会に報告することとなりました。

委員長から市の第３期基本計画の実施計画について各部会で練ってもらう時間があってもいいのではないかというお話もありました。健康が今回テーマとなっておりますが、その協議がある段階で落ち着いてきましたら、この実施計画の部分についての内容確認ということも各部会で検討することとなると思います。

次回の部会長・副部会長会議につきましては、各部会の取り組みに関する市の来年度の予算措置の報告などを案件としまして、年明けに開催する予定となりました。

先日の部会長・副部会長会議の概要は、今ご説明したとおりになります。

以降は部会長に引き継ぎたいと思いますけれども、部会長・副部会長も会議に出席されていたと思いますので、会議の内容について追加の説明がありましたら、お願いしたいと思います。それから今の部会長・副部会長の会議の内容につきまして、委員の皆さんから質問等がありましたら、そちらのほうの質問についてもいただきたいと思います。

それから、Ａ４の両面の資料になりますが、これはまちづくり部会のこれから取り組む健康の講演会の詳細について、事務局で作成したものですが、内容についての説明は割愛させていただきます。

最後にこちらのチラシになりますが、こちらは委員のほうからいただいておりますが、今月の医学の講座のチラシを皆さんに、お配りしております。

事務局からの説明は、以上になります。

**≪部会員≫**

１点いいですか。事務局の先ほどのご説明の中で、部会間の調整は事務局サイドでおこなうというご説明があったかと思うのですけれど、例えば防災・環境部会でウォーキング、都市調和部会でもウォーキングと似たような事業をされる場合に関して、何も依存はないのですけれども、ただ事業をやった結果・結論に対して共通項というか、これとこれを組み合わせるとより相乗効果が出るよといった、そういうまとめが必要だと思うのですね。そういった調整はどこでやるのですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

事務局のほうとあとは部会長・副部会長会議の中の連携の話もあって、先ほど説明したように、例えば防災・環境部会のウォーキングと産業躍動部会の料理教室を連携させたらどうだという提案みたいなものは、部会長・副部会長会議にもあったのですけども、それを最終的に提案があったものについては、事務局のほうで調整などはかけていこうと思っています。

ただ今回防災・環境部会のウォーキングについては、なくなってしまいました。

**≪部会員≫**

その辺で二者択一する場合によって、部会の意見というものを取り逃さず入れなければ、事務局サイドのまとめだけでは、全く別のものになる可能性があるかなと思います。

**≪庁内委員兼事務局≫**

今こういう話があるということで、それぞれの部会に話をして、状況によっては両方の部会で集まっていただいてその中で話をしていくということです。

**≪部会員≫**

わかりました。

**≪副部会長≫**

都市調和部会で木材を使った公営住宅の件で、部会長の方からいろいろ話が出ていましたが、いろいろな提言をしているのに、行政側からそれに対して返答がないと。これでは本当に協働してやっていけるのかという意見が出たのです。これって協働のまちづくりをする上ですごく重要なことで、先ほどおっしゃっていたことと、似てくると思うのだけれど、常に信頼関係が培われながら、この仕事をやっていって初めて協働がつくられていくわけで、そこら辺の調整はどうなったのですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

そこの話はしました。そして、一度担当者も入れて意見交換をする場を持つという話でまとまりました。

**≪副部会長≫**

都市調和部会の皆さんは、理解、納得されたのですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

そうですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

今健康の話が出ていて、コンクリートストレスの話から遡って以前の話が出てきたような感じがあるみたいなのです。双方それぞれ話を聞けば、都市整備部のほうの言い分としては、回答していないというわけではなく、検討していくと。

ただ、その実現性が見えてこないから、おそらく都市調和部会が疑問に思っているのかなと思います。

**≪副部会長≫**

そういう説明が常にされていれば理解してもらえるし、こちらが提言したからそのとおりになるなどといったことは決してないわけで、進まない状況の説明やここまでやっていますなど、そういうものがあって初めて信頼できるのかなと思うのです。

**≪部会員≫**

お互いのキャッチボールは絶対必要なのです。信頼関係でそうなってきますから。

**≪部会長≫**

全体会議の報告はいろいろあるかもしれないけれど、独立した形で６つの部会がありますので、そこの部分は部会に任せて進めてもらうということで、まちづくり部会としてこの報告にもありますように、来年度取り組む内容について、もう少しつめたいということですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

前回話した中では、最初はある程度興味をもってもらわないといけないので、３地区くらいでさわりを話して、もうちょっと聞きたいなというところを市民会館に集まってもらい、部位別にもっと詳しい話を３回くらいやればいいのではないかという話で終わっていたと思います。市民会館でやるときは、３回やれば２つの部位ごとで、３回で話せますか。この資料の裏のほうに書いてあるのですけれど、１回目が首と肩で、２回目が腰と背中で、３回目が膝と足首でそれで３回という形ですね。

**≪部会員≫**

まずロコモティブシンドロームということと、運動することは違いますよという話をしないとだめです。

**≪部会員≫**

まずロコモということを認知するための事前資料みたいなものがあったらいいのかなと思うのです。

厚生労働省のホームページにはきっと何かあると思います。参考資料の中の縦型の事業資料の中にも、詳しく運動器とはと出ていますけれども、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）、運動器とは、骨、関節、靭帯、脊椎、脊髄、筋肉、腱、末梢神経など体を支え、動かす運動・移動の役割を果たす器官。要はこれで見ると、末梢神経も関係していて、運動神経も関係している。迷走神経も自律神経も関係しているのだけれど、神経系だとか、それからここに腱と書いてありますよね。筋肉とわざわざうたっているのです。腱と筋肉は別物にしているのです。それからもう１つ骨と関節のすぐ下に、靭帯とここに入れているのです。靭帯、筋肉、腱とわざわざ分けているのです。その意味を知ると言うことがすごく大事なことなのです。だから、ロコモというふうにやると、とにかく体を動かせばいいんだという認識があって、ここにも認知度が厚生労働省の検証で平成24年度の認知度が17.3パーセントと２割弱です。平成34年度までに80パーセントまで目標を上げようと。平成34年といったら、今から６年後です。あと9年後には、国が今働きかけて準備を進めている2025年度問題があります。65歳以上が３人に１人、75歳以上が５人に１人という時代を迎えるのが、あと９年後なのです。

**≪庁内委員兼事務局≫**

団塊の世代がいい歳になってしまうからですね。

**≪部会員≫**

そうです。下支えするところもなくなり、介護される人が飽和状態になってしまうのです。そういうふうになったときに、介護する人たちは高齢になってくるのだから、介護にならないための関節の上手な動かし方を今から覚えておかないとだめだという定義がロコモの中にはあるのです。これを説明するのに、100人単位でやっていて伝わるのかというところがあります。

**≪庁内委員兼事務局≫**

今回のつくりとして、最初から大きいところでやっても人はそんなに集まらないかなということで、地域に行って１度委員の話を聞いてもらい、さわりの話をしてもらったほうが、いろいろと興味がわくと思うのです。そのあとに、大きいところでまとめて連載みたいな形でやる流れで作っていたのですけれども。

**≪部会員≫**

　距離感があるとなかなか伝わらないと思うのです。

**≪庁内委員兼事務局≫**

講習の人数は30人がいいというところですか。

**≪部会員≫**

30人くらいが伝えやすいのです。距離感があると伝わらないのです。

30人を定員として、細かくやったほうがもっといいのではないかなと思います。

６回あるのだったら、６回の場所に分けてはだめですか。

やはりある程度来た人たちが満足して、自分の健康づくりを見直すためのきっかけになるためと思えば、もう少し細部にわたってやったほうが、100人集めて３カ所でと言ったら、多分伝わらない人のほうが７割、８割で終わってしまうのではないかなと思います。

**≪庁内委員兼事務局≫**

１回30人でやりますよね。それをまた別の人で６回やるということのほうがいいということですか。ただ、１回で説明は終わるのですか。

**≪部会員≫**

１回で終わらないです。というか、ずっと終わらないです。私はずっと苫小牧で毎週のようにやっています。毎週同じことをやっても、みんな覚えません。だからずっと継続なのだと思うのです。やらないといけないのだと思います。誰かがやりましょうと言わなきゃいけないと思うのです。そこはちょっと私もわからないけれど、やっぱり本当にロコモに真剣に取り組もうと思うのであれば、本当に北海道のほかの自治体ではやっていませんから。

**≪庁内委員兼事務局≫**

室蘭などもやっていないでしょう。

**≪部会員≫**

やっていないです。北海道の自治体でやっているところは、札幌がちょっとやっているくらいなのです。それと整形外科にポスターだけ貼ってあります。

**≪庁内委員兼事務局≫**

日本の福祉21でも、ロコモときちんと載っていて、その数値目標まで入れていますよね。

**≪部会員≫**

入れています。３大症候群の１つですから。

**≪庁内委員兼事務局≫**

それなのに、なぜやっていないのでしょうかね。

**≪部会員≫**

要するに、まずこの部会はきっかけをつくるということが大事ですよね。だから、あまり初めからすべてをマスターするというのは、なかなかできないから、みんなにきっかけをつくって、そしてそれをやることによって、こういうところに行ってみようかとそういう気持ちが起こる。

**≪部会員≫**

30人前後を目安にして、最初は大きな講演会を３つでやるのではなくて、それをもう少し細かく６地区に分けて、きっかけづくりのためのロコモってこんなことなのだよということを話して、少し体操をまぜてやるとおもしろいかもしれないですね。

**≪副部会長≫**

自分の健康を自ら考え行動できる人を、どれだけ市民につくるかということですよね。それが目的ですよね。

**≪部会員≫**

委員としてはより深いきっかけを与えたいということですよね。

**≪部会員≫**

どうせやるならちゃんとした理由を聞いてほしいなと思います。

**≪部会員≫**

体験を踏まえながらですよね。そうすると１人当たりの、体験時間みたいなのが人数少ないと気付ける人が増えるということですね。

**≪部会員≫**

そのほうが伝わりやすいですし、みんなで楽しく盛り上がれます。

講演会と言うと、お話聞いて終わりです。私もよく無料の講演会などもやりますけれど、そうしたらじゃどうしたらいいのでしょうとなるのです。そこは市民向けの講演会だったらかわいそうじゃないですか。だから、それだったら話もするけれど、実際に体も使ってちょっとやってみようと。意外とやるとみんな難しいことに気付きますよ。どうなのでしょうか、これはいつやるのですか。

**≪事務局≫**

来年度の４月以降です。

**≪部会員≫**

来年度はこれで終わりということですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

これにプラスしてコラムか何かで広報で載せていき、ある程度浸透したところで、当初の予定としては各地区で話を聞いてもらい、すごくおもしろい話だなとなった段階で、市民会館で人を集めて３回講座という想定だったのですけれども。

内容的には６回分として、そこら辺の組み替えは可能だと思いますけれども、きっかけづくりを６カ所でやるほうがいいという形なのですか。消化不良みたいな感じで、もう少し聞きたいのだけれどどうしたらいいのという話にならないかなと。

**≪副部会長≫**

裏を見ると平成30、31年度の中身は書いていないけれど、行政としては平成29年度だけで終わらせるということではなくて、様子を見ながらということですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

まだ決まっていないので、何も入れていないということです。

**≪副部会長≫**

市民が独り立ちして、これを進めるには、１回や２回では、絶対いかないですよね。やはり何年間か継続してやる中で、そこから１人でも２人でも実践していくのではないでしょうか。

**≪部会長≫**

これを継続してやらないと、それこそ消化不良を起こすと思います。

**≪庁内委員兼事務局≫**

先程言ったようにきっかけ、興味をもってもらい、委員が自主的にやる中で市民がみんな参加してもらえれば、それが一番いいのです。ずっとこの中の事業としてやるのではなくて、自立した独立したものとしてやっていただき、それに市民が興味をもって参加してもらうというのが、目的と言うか目標です。

**≪部会員≫**

要するに、市民は自分で健康に対して、どういう不安をもって生活をしているか。例えば、１年に１回検査を受けているから私は大丈夫だと。それができればいいけれど、なかなかそれができない人がたくさんいます。検査を１回も受けたことのないような人が、知識を持てばある程度、自分はどこが異常だなと思って、そこで病院へ行って検査をしてもらうなどのためにこれが活用できるのがすごくいいわけです。頭から、足の先まで何か知らないけれど、調べてもらわないとわからないというよりも、私はどこが異常だと、判断ができるような知識をみんなが持っていれば、気がついたときは遅かったということを逃れられます。私はそういうことが、本当の登別市が目指す健康管理ということだと思うのです。今でも検査をしたら悪いところが見つかって、手遅れだという方がたくさんいるのです。手術ができなくなっていたなど。自分で自分の体の調子を見ながら、自分である程度診断ができて、専門医にきちんと診察してもらうなど。何か漠然とやるよりもそういう目的みたいなものをきちんとつくって、ここに到達するための、研修や勉強会をやるのだということをしたほうがいい。

**≪部会員≫**

ロコモという定義にしてしまったから、範囲が広すぎるのですよね。日本の福祉21のほうでそれをうたっているから、当然いいと思うのだけれど、ロコモというと関節すべてなのですよね。関節に関わるすべてのものということになってくると、手首だろうが肩だろうが、首、腰、膝、股関節だろうが、全部になってしまうのですよね。これを一つ一つ説明すると相当かかります。

**≪庁内委員兼事務局≫**

個人的な見解になってしまうかもしれませんが、単純に聞く側からすると、６回あって１回目に肩をやりますよね。そこであえて終わらせて、もうこれで終わりなのかというような、次に期待させるようなもっていき方のほうが。同じものを６回やるよりいいと思います。

**≪部会員≫**

委員の話はなぜみんな興味を持つかと言うと、体の仕組みをきちんと説明する。それぞれの機能の働きをきちんと説明するから、結構皆さん理解がしやすい。だから、まずは人間の体の仕組みはどうなっているかということを、知るだけでもものすごく勉強になるから、さっき言ったようにきちんとした到達点をどこかにおけば、そのためには１年、２年かかるかもしれないけれど、どうせやるならきちんとやったほうがいいと思います。教える側の立場でそういう準備をしないと、こちらの都合で何回もやっていられないから、一度に100人も150人も集めて、とにかく１回話を聞こうというのだったら、ただやったというだけのことで終わってしまうのです。

**≪部会員≫**

１年の目安として６回としていますが、ロコモのどこを終着点にしているのでしょうか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

例えば今話をしたきっかけづくり、興味をもってもらうというところを目標においたとしたら、そのきっかけや興味をもってもらうためのお話をしてもらう。それを例えば６回だったら６回やったほうがいいのか。

**≪部会員≫**

終着点とかいう話が出たのですけれど、私が思うにロコモティブシンドローム、おおざっぱに言えば健康ですね。健康というのはあまりに漠然として、健康になるためには人として見た場合に、やはり免疫力だと私は思います。自己免疫力ということで、薬ではないのです。あれは単なるきっかけでしかないから、薬というのは作用と同時に副作用と２つありますから。常に自分で健康を維持するためには、今ロコモティブシンドロームをきっかけとして、健康というイメージを持っていただき、そこになるためには自己免疫力をあげるに完結するということにもっていくと、本当に自分のことのように思えるのかなと私は思うのです。薬に頼らず、自分の体は自分で治すといった要素があると非常に明るい話で希望を持てる話なのです。病気になっても大丈夫なのだと。ある程度自分の食生活も含めて、生活することで改善できるのだという話にもっていけるのは、非常に広がりがある話なのかなと思います。これは私の考えです。

**≪部会員≫**

これはやることは決まったのですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

予算が決定するのは年明けですので、まだ決まっていないです。

今、回数は６回分しかみていないですけれど、もしかしたら回数の増減があるかもしれないです。

**≪部会員≫**

今免疫の話が出たのですけれど、健康でいるための体のシステムの話をして、だから日々体を正しく動かすことが重要なのだというように、終着点をもってくるような感じで言って、体操を少しやるような感じですか。まず体の仕組みの話をして、ロコモとはどうかと。体の関節や筋肉はこういうふうになっていますよと。日々の生活に簡単な関節の体操からやってみませんかというような感じですか。

**≪部会員≫**

自分の生活のサイクルに取り込めるような、取り入れられるような。

**≪部会員≫**

予算が決定したら１回やってみますか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

今言ったように６回でいいですか。

**≪部会員≫**

６回というか、細かい地区で区切ったほうがやりやすいと思うのです。

**≪庁内委員兼事務局≫**

今の話は１時間で終わりますか。

**≪部会員≫**

１時間半ですね。１時間半ということは、結局は２時間になってしまいます。質問が必ずあると思うので、２時間を目安に終わらせる。

**≪庁内委員兼事務局≫**

同じ話を６カ所ですか。

**≪部会員≫**

そうです。同じ話を６カ所でやって、きっかけづくりの話であって細かい話はしないです。体の仕組みと現実の障害とのお話を交えながら、体では実を言うとすごいことをやっているのだけれども、みんながそれをやらないように遮断しているという事実があるから障害が起きる。先天的なもの以外骨格障害はみんなそうです。

**≪庁内委員兼事務局≫**

それはロコモから外れていないのですね。

**≪部会員≫**

外れていないです。ロコモの話の中の、ロコモってなぜ起こるのかという話も当然そこでします。間違った体の使い方、ストレッチなんかやっているからだめなのですよというわけです。

**≪副部会長≫**

基本的なこと聞いていいですか。こうやって６回なりやるじゃないですか。その主体はまちづくり部会でしょう。自分たちがいろいろやらないといけないということですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

はい。そうですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

市内６カ所に分けるといったらどういう感じにしますか。

美園・若草、新生・富岸、幌別、登別、鷲別と分けたほうがいいですか。

**≪部会員≫**

結構年配の方々や、若い方もそうですが、やはり近いところだから行くとよく言われるのです。私は若い人方にも聞いてほしいと思っているのです。

**≪部会員≫**

定員は30人から50人ですか。あくまでも30人ですか。

**≪部会員≫**

私の場合、ホワイトボードに書いて、マイクを使わないで伝えたいので伝わる範囲。

**≪庁内委員兼事務局≫**

定員は30人で募集するということですね。

やるのでしたら、この間の委員会がやったみたいに、委員がいて椅子で囲むといった感じですか。

**≪部会員≫**

座ってもらいます。膝の悪い人たちは椅子で、残りは座っていただくような形です。

**≪庁内委員兼事務局≫**

絨毯や畳のようなところのほうがやりやすいですか。

**≪部会員≫**

こういうフロアでもいいのですけれど、畳などのほうが、足に優しいじゃないですか。体操なんかは足の仕組みのお話もしないといけないので、裸足になっていただいたほうがいいです。基本は裸足でもいられるところです。

**≪副部会長≫**

婦人研修の家や町内会館のようなところがいいかもしれないですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

地区連単位だと10地区になりますが、６地区単位でいいですか。

**≪部会員≫**

小学校区単位がいいですね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

小学校区単位なら８区です。

**≪部会員≫**

日にちの設定とかも決まってからですね。

ここから始まって、次にどこかの小学校PTAの会合に子供たちのために行ったほうが、いいですよね。

**≪部会長≫**

今後、今年は毎月部会をやるのですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

部会によっては、取り組みが少し固まってきたというところで、ちょっと休憩してもいいのではないかという部会はありました。ただ、毎月やるという部会ももちろんありまます。

予算が決まってから開いてもいいです。

**≪部会長≫**

もっと具体的な話ができますよね。

**≪庁内委員兼事務局≫**

年明けに部会長・副部会長会議も開こうと思っています。

**≪庁内委員兼事務局≫**

予算が１月末ころ固まると思いますので、こちらから都合を聞いて開催します。

【次回会議について】

　講演会の開催について、具体的に検討していく。